

ーオーディオ史上初の波形再現スピーカーシステムについて(3)ー
＜ある「老オーディオマニア」の無謀な挑戦の物語の紹介＞

弁理士 阿仁屋節雄

『どんなにいじくったところで、所詮「オーディオ」の「音」なぞ、「生」とは全く「別もん」に過ぎん！』『「オーディオ」なんぞ、「生」からみれば、トランジスタラジオに毛の生えたようなもんじゃ！』『そげなもんにカネかけたり、ジカン費やすヒマあったら、「生」聴け！』などというコエをトキドキ耳や眼にすることがある。

「オーディオの音は、生とは別もん」というのは、その通りであるとは思ふ。がしかし、それをいえば、「映画やドラマ」も「生」とは、「別もん」であるが、「生」とは別に大いに楽しめる。「オーディオ」もソレと同じようなもん、じゃないのか？というリクツでそのヒボウにはコウベンすることになっている（笑）。

そんなコウベンはともかくとして、「オーディオ」には、「映像」世界にはない「底なし」の「楽しみ？」がある、とも言えそうである。

テレビ画面の映像などは出荷時点でほぼ完ぺきに「正しく」調整済みであり、それを「好み」の映像に変えるために弄るなどハナから考えられない。しかるに、「オーディオ」の界限では、もう、いじり放題いじくりまわすのが普通で、それが大きな楽しみにもなっている「広大なヤミ深い？世界」（笑）が広がっているのである。

同じ記録・再生の道具に過ぎないのに、「オーディオ」世界と、「映像」世界とでのこの違いは一体全体ナンなのだ？と、60年内外もこの「ヤミ深い世界」にどっぷり嵌った結果、もうどうにもこうにも身動き取れなくなった「波形再現翁（筆者のフェイスブック上のペンネーム）」は、ある日、突如として目覚めたのであった。

そして、ナント！現状の全てのオーディオの「音」は、みな「正しくない」「音」に違いない！と、確信してしまったのである。

沢山のモノどうしがみな違うモノであったら、そのうちの一つだけが正しくてそれ以外は正しくないか、もしくは、全てが正しくないモノである、ということになる。オーディオの世界では、様々な著名なメーカーの「音」がみな互いに違うことからわかるように、全く同じシステムでもない限り、同じ「音」

は二つとないことは間違いのない事実である。この事実から、しちめんどうな測定などするまでもなく、論理的にみて、現状のオーディオの「音」は、みな「正しくない音」であるという結論が導かれる。

そして、そして、ナント！波形再現翁が、オーディオにおける「正しい音」とはどういうものか？を解明し、同時に、現状の全ての「音」が「正しくない音」であることを実証してしまったのである。

それは、オーディオにおける「正しい音」とは、SPから飛び出す「音」を直に表す「物理因子」であって、しかも、記録された「音」の全てである「波形（音楽波形）」の「再現性」が理想状態（波形再現率が100%）である「音」である、ということ。また、現状のオーディオの全てのシステムは、この「波形再現性」が理想からほど遠い（波形再現率が50～70%内外）し、また、互いにみな違う、ということも、波形再現率の実測によって実証されたのである。

ということで、波形再現翁は、オーディオ史上初めて、「正しい音」を実現し、その「正しい音」を、一人毎日「正しく」楽しませてもらっているのである（笑）。

エ！じゃー、その「ヤミ深い世界」も一掃されるのか？ってー？

ナニ、ゴシンパイムヨウ！イマの世界とおんなじで「ヤミ」が一掃されるなんぞ、まずあり得んじゃろーて！（笑）

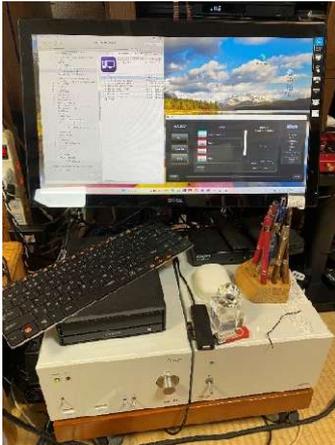
* 写真の説明

<最新改良版5 ウエイ波形再現 SP 実験機>

- ・ ツイタ；ダイヤトーン 35mm ポロン振動板（1.8KHz～）
- ・ ミッドハイ；サトリ 64mm ドーム（800～1.8KHz）
- ・ ミッドロー；モレル 16cm ドーム（150～800Hz）
- ・ ウーハー；ピアレス 25cm ドーム（60～150Hz）
- ・ サブウーハー；デイトン 38cm コーン（30～60Hz）

<駆動システム（S&K Audio 社設計・Venetor Sound 社製）>

- ・ パソコン；チャンデバ・補正ソフト、プレーヤーソフト
- ・ マルチチャンネルアンプ；Dante Network 内蔵の Ncore 250W × 8



以上